

風"s・風のたよりオンライン版

2012/8/25 No.179

風のたより179号

ピープルツリー-2012年秋冬号のカタログにバンングラデシュのツアーに参加した感想文が写真
いりで紹介されました。



写真1 (ピープルツリーカタログ)



写真2 (ゆきこ記事)

178号のタナパラ村のスワローズ訪問の報告の続きです。 ■ スワローズ代表だったライハンさんの後継者シャントラさんは30歳

2012年4月2日ツアー参加者6人が3つのグループに別れ、現地の言葉が話せる人と組み、スワローズに働く人の家に朝7時集合でインタビューにでかけた。



写真3 ワイハイダさんへのインタビュー (左がシャントラさん)

私達のグループは、スワローズ代表のシャントラさんが通訳。彼は30歳。代表のライハンさんが、昨年心筋梗塞でたおれたあとを引き継いでいる。

スワローズについては、ピープルツリーの生産者情報により青い制服を着た子どもたちの学校の様子の写真を知っているが、その子どもたちがスワローズの入り口でみんなで歌を歌い、歓迎してくれた。ワクワクする出会いの瞬間だった。スワローズの子ども達は、積極的に「What's Your name?」と聞いてきます。

[動画リンク：http://youtu.be/IYxIrONOf3M](http://youtu.be/IYxIrONOf3M)

■ 広いスワローズの学校の運動場での歓迎のセレモニー

オレンジや赤に金のブロックプリントのある舞踏用の衣装を着た女の子らと、校長先生が手押しオルガンや大きなつつみのような太鼓を伴奏に歌を聞かせてくださった。



写真4 校長先生と子どもたち

舞踏の披露もあり、私達日本勢も「上を向いて歩こう」を歌いお返しをした。バングラデシュではこの曲は知られていなかったみたい。でも16年前インドでも、2月にインドネシアへ出かけた時も知られていた曲でしたが…

■ スワローズの学校の校長先生、いいな……!



写真5 校長先生の体操指導

なぜって、翌朝、朝礼の時に学校へ行ったら、校長先生自ら体操を指導。私もなって体操をしていたら、校長先生の後ろで並んで見ていた他のツアー参加の人達も体操をし始めた。楽しい朝の時間でした。

校長先生は、スワローズ滞在の2日目の夕方、ボートの旅にみんなと出かけた時と一緒に、その時も太鼓と手押しオルガンを舟に持ち込み、しばし10数人の人達がバンングラデシュの歌を4~5曲くらい歌った。



写真6 ボートの上での演奏

後で歌の内容を聞くと、川の歌あり、カボチャの歌あり、またイスラム教も、キリスト教も、ヒンズー教もみんな一緒に暮らそう…というような歌もあったようです。

この舟には、スワローズの代表だったライハンさんも車椅子で同乗。ライハンさんは、どんな思いで川を見ているのかしらと思いました。



写真7 ワークショップ参加のライハンさん（右はサフィア・ミニーさん）

■ パキスタンから独立する時、タナパラ村の男達は全員殺された。

彼が来日した折に聞いた話では、タナパラ村の男たちは川の向こうに並べさせられ、女子どもはこちらにいて助かったが、男達は全て殺された。ライハンさんは、子どもだったので助かったということでした。夫を亡くしたタナパラ村の女性達に、男性の仕事の機織りを仕事にするようにプロジェクトが始まり今にいたります。

このボートの旅でバングラデシュの人達が唱和する姿は素敵でした。こころがひとつで、みんなでこの村をよくして行こう！ みんなで子ども達を育てて行こう、みんなでこの国バングラデシュをよくして行こう！ そんな気持ちが伝わってきました。

今の日本人に5曲くらい歌詞を暗唱し、歌うことができるでしょうか？

■ スワローズでの、ゲストハウス

個室を頂きホテルとはまいませんが、美味しい食事、食後のコーヒー(インスタント)なども用意され不自由は感じない2日間でした。水シャワーは、慣れないけれど陽が登るころには自然に温水になっています。ベッドには蚊帳もかけてあり、香取線香も持参しましたが、虫や蚊に悩まされることはなく、朝夕は過ごしやすいです。

次回は、今回の旅の一つの目的である、生産者さんたちの品質管理のワークショップの様子など報告します。